

Jazz Guitar Lesson

For Jazz Beginner 【12】



Mistletoe Music School

<YouTube 動画URL>

<https://youtu.be/nNLkIHmGgmU>

ロックギタリストのための

ジャズギター入門シリーズ！【12】

ジャズに初めて挑戦する方を応援する「ジャズギター入門シリーズ」第12回目は「伴奏課題：ウォーキングベースの発展」「ソロ課題：オルタードの発展」「超重要課題：バランスを保つ練習」です。前回は「練習らしい練習」と「楽しむ練習」のバランスについて説明しましたが、今回は「演奏内容のバランス」です。擬似本番な練習とは？

【伴奏課題】

－ 2ビートに4分音符を導入 －

2ビートのベースラインでは「ニュアンス」と「トライアド」が重要ポイントでした。今回は更に4拍目に4分音符を導入し、ウォーキングベースを完成に近づけていきます。レッスンではポイントに絞って全ての小節で導入していきますが、私の情報を鵜呑みにせず、必ずベーシストの演奏を聴くことようにしましょう。

どんな楽曲、どのタイミングで2ビートを弾いているか？

4分音符や8分音符の入る量はどの程度か？

講師は単なるジャズ習得までの道案内人に過ぎません。
いつも一流アーティストの録音が先生です。



- Cm7から F7へのバリエーション -

4分音符を加える場合もトライアドを軸にします。

Rootと3rd

Rootと5th

Root→3rd→5th

Root→5th→3rd

Root→下方の5th

Root→下方の5th→3rd

6弦の最低音がE音の為、Cm7のRootの下方3度 (E♭音) は演奏出来ませんが、F7やE♭M7、D7では積極的に取り入れてください。



- 実例 -

1 Cm7 2 F7 3 B \flat M7 4 E \flat M7

5 Am7 \flat 5 6 D7 7 Gm7 8 G7

9 Cm7 10 F7 11 B \flat M7 12 E \flat M7

13 Am7 \flat 5 14 D7 15 Gm7 16 Gm7

- 8分音符の導入 -

スウィング感を増し、ベースの流れを良くする為に「8分音符」を導入していきます。これは1拍ずつ動くウォーキング・ベースの際にも使用されます。今回は導入しやすい4拍目の裏を最初に練習しましょう。慣れてきたら、3拍目の裏と4拍目の裏をミックスさせて練習していきます。3拍目の裏は、技法的には正しくても、選択する音により「心地良い響き」と「なんとなく不自然な響き」を感じるかと思います。このあたりはセンスになります。ベーシストをしっかり聞きましょう。

- 4拍目の裏 -

1 Cm7 2 F7 3 B \flat M7 4 E \flat M7

5 Am7 \flat 5 6 D7 7 Gm7 8 G7 9 Cm7

- 3拍目の裏+4拍目の裏 -

1 Cm7 2 F7 3 B \flat M7 4 E \flat M7

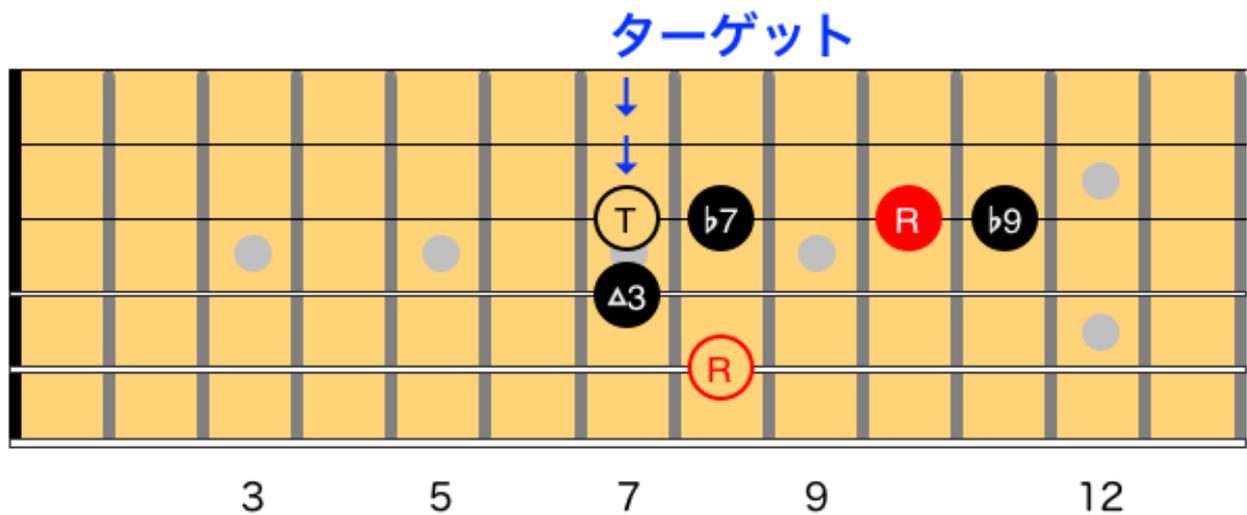
5 Am7 \flat 5 6 D7 7 Gm7 8 G7 9 Cm7

【ソロ課題】

－ 8分音符での解決ライン －

7thコード上での動き「3rd→♭9th→Root→♭7th」→「次のコードの3rd」をジャズらしい8分音符で連結します。この時のポイントは「次の小節1拍目で必ず着地させること」です。半拍でもズレ込んでしまったらアウトです。このラインを「4音+着地の1音」を「解決フレーズ」と呼ぶことにします。

Ex.) F7 → B♭M7での解決フレーズ



－ 解決位置の確認 －

まずは他のコードを無視して、解決位置のみ練習をします

1 Cm7 2 F7 3 B♭M7 4 E♭M7

5 Am7 ♭5 6 D7 7 Gm7 8 G7

- 解決実例 -

7thコード以外は3度連結を行い、F7、D7、G7の3箇所から次のコードへと向かう「解決フレーズ」を導入します。

The image displays a musical score for guitar, consisting of four systems of staff and TAB notation. The key signature is one flat (B-flat major / D minor) and the time signature is common time (C).

System 1: Measures 1-4. Chords: Cm7 (measure 1), F7 (measure 2), BbM7 (measure 3), EbM7 (measure 4). TAB: ⑧ 10 8 | ⑦ 7 11 10 8 | ⑦ 8 7 | ⑤ 8 7.

System 2: Measures 5-8. Chords: Am7 b5 (measure 5), D7 (measure 6), Gm7 (measure 7), G7 (measure 8). TAB: ⑤ 7 5 | ④ 4 8 7 5 | ③ ⑧ | ⑨ 9 13 12 10.

System 3: Measures 9-12. Chords: Cm7 (measure 9), F7 (measure 10), BbM7 (measure 11), EbM7 (measure 12). TAB: ⑧ 10 8 | ⑦ 7 11 10 8 | ⑦ 8 7 7 5 | ⑤ 8 7.

System 4: Measures 13-16. Chords: Am7 b5 (measure 13), D7 (measure 14), Gm7 (measure 15), Gm7 (measure 16). TAB: ⑤ 7 5 | ④ 4 8 7 5 | ③ ⑤ | - - - -.

－ 超重要課題：バランスを保つ練習 －

Keyのスケール（Gmスケール）と、これまでに学んだ内容を整理しましょう。

- 1) Gm スケール
- 2) Gmコードへのアプローチ
- 3) B♭とGmコードへのアプローチ
- 4) 各コードの3度音の連結
- 5) 7thコードを不協和に（オルタード）解決フレーズ

練習では、これらの要素がスムーズに演奏出来るように特化して練習していますが、本番でも、3度を追い始めたら3度ばかりになってしまったり、毎回のよう同じ解決フレーズを導入しがちです。皆さんは、そんな演奏を聴いたことがありますか？（何度もお伝えしますが、先生はアーティストの音源です）実際には、上記の要素をバランス良く演奏していかなければいけません。この練習に一番時間を割く必要があります。

－ アドリブの理想像 －

▼上手くなる方は、「こう弾きたい！」という理想があります。ハッキリと見えていなかったとしても、3度音ばかりを追うような演奏や、同じ解決ばかりを繰り返す演奏には絶対になりません。その演奏が自分の求めるアドリブではないことを理解しています。

▼逆に上手くいかない方は、練習の際に「こうなりたい」という理想が見えていないのはもちろんのこと、本番でも、練習同様に同じフレーズを連発します。「とある教本でこれが大事と言った」「YouTubeでこんな練習していた」とアイデアを得ると、練習方法だけに意識がいきってしまい、そればかりになってしまいます。最終的なアドリブのビジョンがありません。

アドリブのビジョンを作るには、多くのアーティストの演奏を聴いて、自分の演奏と比較します。比べものにならない程の差があるのですが「何が違うのか？」を考えましょう。そして、練習と本番をしっかりと区別し、本番的な練習（バランスを保つ練習）の量が必要です。擬似本番を作り出しましょう。どこかで披露するイメージを持ったり、録音・録画も良いですね。SNSで自分の演奏を晒すとか（笑）何度でも失敗していいんです。上達するために必要な失敗数があるんだと思しましょう。上手い人もみんな通ってきた道です。恥ずかしがる必要はありません。

いつかYouTubeにご自身の練習をアップされ、「これだけ弾けるようになりました」とコメントを下さる方がいらっしやると良いなあと思っています。



－ 注意点 －

この時点で陥り易いポイントとして挙げられるのは「3度音を連結して弾いている時はコード進行を追えるけれど、Gmのコードへのアプローチをしているとコード進行をロストする」状況です。これは実は「しっかり覚えられていない」のが原因です。「全てのコードを追って、なんとか止まらずに解決を着地させよう」と反復練習を繰り返すと、指板上を理解して演奏するより、視覚的な押弦順序、身体的な動きのパターンの方が早くしあがります。分かってなくても弾けるのはその為です。

決して、これが失敗という話ではありません。これもまた上達までの過程なんだろうようにして下さい。ロストするのであれば、ロストしないように次のコードを意識する、意識出来ているかどうかは声に出せばOKです。ということで下記のような練習をしましょう。

Gmコードへの装飾をしながらコード進行を声に出す
各コードの3度音を連結しながら、次のコード名を声に出す

－ 実例 －

最後に、実演したもののスコアを記載します。今回動画にスコアを記載しなかったのは、音を追いかけることよりも、どのアイデアを使用しているかを説明したかったからです。1つのアイデアだけで弾き続けることはありません。

Autumn Leaves

Mistletoe Music School

♩ = 180

The score is divided into five systems, each with a treble clef staff and a guitar tablature staff. Chord diagrams are placed above the treble staff. The key signature has two flats (Bb and Eb), and the time signature is common time (C). Measure numbers 1 through 20 are indicated at the start of each system. The tablature includes various techniques such as bends (marked 'H'), slurs, and triplets. The chord progression is: Cm7, F7, BbM7, EbM7 (measures 1-4); Am7b5, D7, Gm7, G7 (measures 5-8); Cm7, F7, BbM7, EbM7 (measures 9-12); Am7b5, D7, Gm7, Gm7 (measures 13-16); Am7b5, D7, Gm, G7 (measures 17-20).

Cm7 F7 B♭M7 E♭M7
 21 22 23 24
 ⑧ 8 10 9 8 | 7 8 7 6 8 6 7 | 8 8 7 8 8 7 6 7 | 7 7 7 8

Am7 ♭5 D7 Gm7 C7 Fm7 B♭7
 25 26 27 28
 ⑤ (5) 7 6 5 | 4 8 8 7 5 | 3 5 5 3 5 7 5 | (5) 7 5 2 3 4 5 2

E♭7 D7 Gm7 Gm7 Cm7
 29 30 31 32 33
 3 4 7 2 3 3 2 5 | 3 5 4 7 5 5 7 | 5 ⑤ | 5 5 7 | ⑧

▼投げ銭応援箱 <https://www.paypal.me/mistletoepay/1000>

Paypalを使用した投げ銭箱です。額は自由に変更できます。
 まだまだ制作頑張ります。応援、宜しくお願い致します。

